

大学が消える街

箱崎は今

◆ 2

の実践の場として、東箱崎公民館を取り上げたことから両者の交流は本格化した。授業で公民館を訪れるうち、学生たちは自発的に活動に加わるようになった。

丹生秀子さん(五巴)は「学生さんとは、地域の大人にできないことを子どもに与えてくれる」と目を細める。

松田ゼミが開けた「風穴」

長崎県出身で、大学生は、地域に新風を吹き込んだ。住民が九大を公民館行していた山中さんもその事に取り込もうと動きだした。

ただ、工学部が伊都キャンパスに移り、箱崎キャンパス構内は目に見えて寂しくなった。九大移転は、話す。

卒業後も住民と交流

はかま姿の主婦山中美沙さん(三五)「古賀市」が「今年は韓国語のかるたを作った。考えてほしい」と依頼を受けてきましたよ。みんなで作ってみましょうね」と呼び掛けると、集まった子どもたちがワツと歓声を上げた。

け、百人一首のサークル活動の経験を生かした大会を企画した。山中さんは大学を離れた今も、「お世話になった地域に恩返しをした

一人。「普段は接点がない地域のおじちゃんやおばちゃん、子どもたちと触れ合えることが楽しい」と、

たのだ。

一月中旬、九州大学箱崎キャンパスに近い東箱崎公民館(福岡市東区箱崎)で開かれた「新春百人一首かるた大会」。四年前に始まり、年一回の恒例行事として定着している。

きずな

高年齢者向けの「九州大ウオッチング」は、構内に残る歴史的な建物や豊富な植物を教授の案内で見学し、スポーツ教室の指導を学生に頼み、発掘体験で子どもたちが発見した化石の鑑定を専門の教授に依頼もする。丹生さんは「以前は

ただ、工学部が伊都キャンパスに移り、箱崎キャンパス構内は目に見えて寂しくなった。九大移転は、話す。



指導役を務める山中さんは、九大教育学部の卒業生。環境学研究院の松田武雄教授(五五)のゼミが、地域教育

地域と学生たちの接着剤となったのは、子どもたちだった。学生をニックネームで呼び、なついて離れない

かるたで交流する九州大学卒業生の山中美沙さん(中央)と地域の住民たち